［釈文］
［見立ちう身ぐら］
鴨居たわんで
ミぞはづれ、障子のこらず
ばた〳〵〳〵
○地しんの時

みたで
あろ〳〵
○通物を

おぞうりつかんで
なりともおともが
しとふ御座り舛
○大工さんの

天川や義平は
おとこでごんす
○此中で施こし

スりや何人のお世話で
「おまへも御ぞんじの
地震さんのおせわで
○よし原をたすかり
宅帰してしらヌ顔してゐる女郎

四十四のほね〳〵も
くだくる様にあつ
たハやイ
○妻子を見殺シ

此よふな目出たい
かなしひ事が
あろふかいなア
○万歳楽と言ながら死

日本一の
あほふの
かゞミ
○吉原で死だ人

我こひの

とゞかぬ
しるしと
○はりの下でわう生する

まつのかた
えだずばト切
○人を助ける

百万の敵はふせぐ
とも左ほどに
正根ハすハらしもの
○吉原で弐人で死ぬる人

お所望申ハ
それでハない
○あなぐら

釣とふろうのあかりを
てらしよむなが
ふミは
○じしん大火絵づ

今日御上使ときく
よりも、かくあらんとハ
かねての覚悟
○工手間直下げ
世俗に申
ちやうちんに
つりがね
○家根屋瓦屋

ほしがる所は
山〳〵ある
○土方人足

こゝをしきつて
かうせめて
○水番世話役

しゝしんぢうの
むしとハおのれが
ことだハヤイ
○なまづ